

## 講評

審査委員長



拓殖大学顧問 渡辺利夫氏

# 思考の言語化へ たゆまぬ研鑽を

戦争などはるか遠い過去のことだと多くの日本人は考えてきました。そんなことはありません。近代に限っても日本は日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦を経験しながら生き抜いてきました。今後の日本はどうなるのでしょうか。

歴史を学ぶことの重要性が今ほど大きい時期はありません。マニング・ダニエル・キエロンさんや伊藤渚希君のスピーチはそういう観点に立って、鋭く問題に切り込み大変に心強いものでした。そして、こういう時代であればこそ、日本人は日本が日本たることの所以である正統的な日本語を守っていかなければならぬという、実にユニークで迫力のある小西沙紀さんのスピーチは聴衆の心に深く食い入るものでした。

今日の諸君のスピーチを聞きながら、文章であれスピーチであれ自己を表現することの深い重要性について私は改めて強く感じさせられました。表現によって私どもは自分の感じていること考えていることを客体化し、そうして初めてこれをみずから思想として定着させることができるのです。感じていること考えていることの言語化がいかに重要であるか、審査委員長の席から諸君の生き生きした立ち居振る舞いを眺めていて、私はそう強く感得させられました。感じていること考えていることの自己表現にぜひ努めてほしいのです。